

(3) 生徒の実験上の工夫が引き出せるよう留意されていること。

方針を実現する上で大切なのは、実験材料費が少額でも可能にすることである。できるだけ安価なもので、高精なものを引き出す工夫が発想を豊かにしていくものである。

脚 註

- 註1 昭和44年度高等学校教育課程都道府県集会
研究成果要旨（県代表者会議で筆者作成のものを県
案として採択提出、文部省）全国集会筆者発表
- 註2 到達度の差に応じた分岐型指導形態の開発と実践
理科の教育 Vol 27 東洋館出版
昭和53年10月号 P 60～
同上発表昭和52年度文部省教育課程講習会（国立教
育会館、県代表として筆者）
- 註3 文部省教育課程講習会（北海道・東北・関東地区）
発表県指定 筆者案発表 昭和55年7月
- 註4 中等教育資料No418 昭和55年11月号P 34～文部省視
学官・調査官
- 註5 学校の実態に即した学習指導と実践……筆者 高校
教育 学事出版 昭和55年12月号P 75～

（主に筆者の著作によるもの）

- 註6 昭和56年度 読賣教育賞「理科教育部門」優秀賞入
賞論文 筆者…読売新聞社
- 註7 高校教育展望 小学館 昭和56年6月号P 160～
- 註8 高校教育展望 小学館 昭和56年7月号P 158～
- 註9 「習熟度に応じた学習指導の実践と評価」報告書
昭和54年度文部省グループ研究費による研究
県立保原高等学校 代表……筆者
- 註10 教育課程の改訂と新科目の学習指導についての研究
県教育委員会指定研究 県立保原高等学校
- 註11 昭和57年度全理セ物理部会研究発表集録
わかる授業の教材展開と評価
- 註12 昭和58年度全理セ物理部会研究発表集録
測定装置とその実験モジュールの開発